



地区広報

# おやまだ

第 1 6 号

平成 8 年 3 月 10 日

震災に備えて



初動消火訓練

## 住民の生命や財産を守る

鹿間町民でつくる自主防災隊（西田輝美隊長・隊員三名）は去る一月、制服に身を固め、寒風について町内で出初め式を兼ね初動消火訓練を行いました。

「地震が起き町内から火の手が上がった」と想定し、可搬式消防ポンプのけたたましいエンジン音と共に、防火貯水槽から吸い上げて六メートル離れて放水。

隊員の士気を高揚し、万が一に備え真剣に取り組みました。

阪神大震災をきっかけに防災隊は、住民の生命や財産を守るため、安全と信頼を担って、いつでも出動できる体制を組んでいます。（写真はエンジンの始動を学ぶ隊員たち＝鹿間町にて）

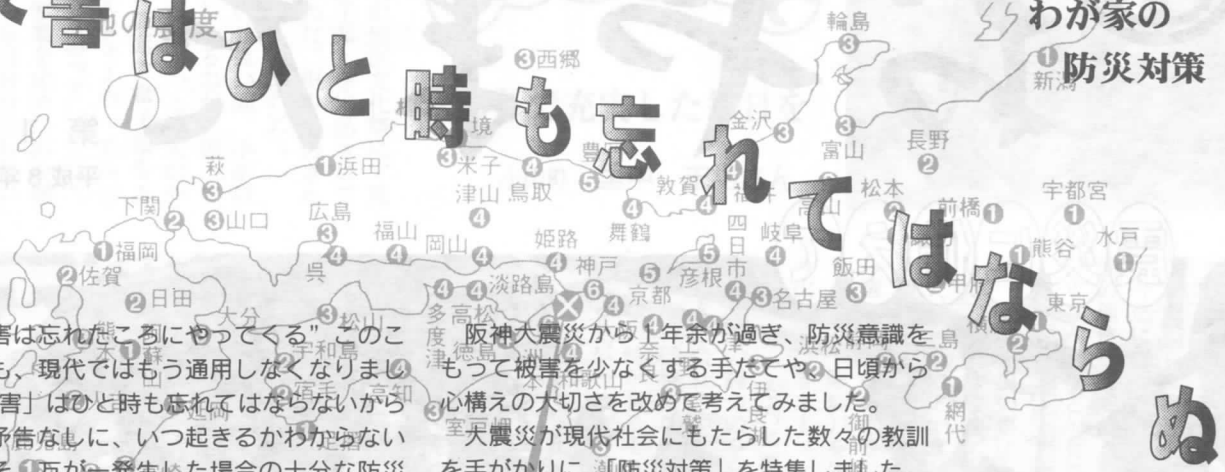
- P おもな内容
- 2・3 特集わが家の防災対策
- 4・5 おやまだあれこれ
- 6 歴史探訪
- 7 民生委員さん抱負
- 8 この人尋ねて

1995年1月17日5時46分

# 阪神大震災から1年

わが家の  
防災対策

## 災害はひと時も忘れてはならぬ



“災害は忘れたころにやってくる”このことわざも、現代ではもう通用なくなりました。「災害」はひと時も忘れてはならないからです。予告なしに、いつ起きるかわからないからこそ、万が一発生した場合の十分な防災対策が重要です。

阪神大震災から1年余が過ぎ、防災意識をもって被害を少なくする手立てや、日頃から心構えの大切さを改めて考えてみました。大震災が現代社会にもたらした数々の教訓を手がかりに、「防災対策」を特集しました。

震源



非常袋は目の届く所に

### いざという時のために

婦人会 (鹿間町)  
小林直子

一年前の震災以来、我が家にも防災備品が置かれました。「備えあれば憂いなし」けれども備えだけで果して安心できるのでしょうか。月日と共に災害に対する危機感が希薄になっていくことに人の心の慣れの怖さと不安を感じます。だから、いざと

いざという時の心構えこそ大切ではないかと思えます。幼稚園で避難訓練をしてきた子の話を聞き、緊急に慣れておくことが、災害、その時に役立つと思えるのです。しかし、家庭の中でその訓練をする機会はありません。私は「非常袋」が目止まる時、もし今、地震が起きたら……と自分の中で災害時を想定してみます。家族の命を救うためまず何をするか、次に何を持っていくか……など順に対処法を考えていきます。たったそれだけのことなのですが、とっさの時、気が動転し易い私は、こうして心の訓練をしておくことが大切だと思います。

### 地震対策

内山町自治会長  
矢田 哲

防災……天災を防ぐこと(三省堂辞典に拠る)  
天災は色々あるが、今回は地震対策を取り上げます。地震による火災が被害を大きくした事は、阪神の大地震ではっきり証明しています。非常時における消火対策こそ大切ですがなかなか難しい問題です。四米以上の公道に続く所に住み、隣の一面は

必ず空地をばさんで家を構える、等というわけには行きません。又、困るのは、道路にずらりの違法駐車。いざという時に消防自動車を通れず、これこそ家屋の下敷きになっていたら悲惨です。ビルの下の消防自動車も郊外へ移して、出動しやすくしておく事も必要かと思えます。いざにしても、消火活動こそ防災の決め手になると思えます。

路上駐車禁止もなかなか守られないと思います。まして道路の拡幅など無理な話ですが、行政も住民も真剣に対策の要があります。東海地震の可能性大だと言います。原稿を書いていても不安な思いでいます。

### あなたの家の防災対策チェック

- 家族の役割分担は決めてありますか？
- 避難場所、避難方法は決めてありますか？
- 家族との連絡方法は決めてありますか？
- 近所の人との協力体制はできていますか？
- 家の耐震診断はしましたか？
- 家具の固定、周辺の安全点検はしましたか？
- 消火器の定期点検はしていますか？
- ガスの元栓は閉めていますか？
- 非常袋、飲料水の備蓄はしていますか？
- 非常持出品の準備はしていますか？

# ① 海善寺大地震で全壊 再造営し移築

鹿間町 秋 伸 元

海善寺（鹿苑山・伊藤俊美住職）は、今から三三七年前の萬治二年、徳川家綱の時代に真宗高田派の海龍という僧が鹿間で創立した由緒あるお寺です。

安政元年六月十四日に起きた大地震で堂の建物が全壊し

今からちょうど百年前。鹿間町（当時・鈴鹿郡久間田村大字鹿間）は、内部川堤防の決壊で多くの民家が流され、大きな被害を受けました。

明治二九年九月十一日の朝。五日前から降り続き、満水の内部川となって左岸の天王山の山すそを切りくずしました。

くずれた土砂でせき止められ、「鹿間橋」から上流約二五〇メートルの右岸堤防が、数十メートルにわたり決壊、濁流は集落四十戸のうち二一戸を押し流す大惨事となりました。

その後、民家は一部を残し内部川を境に左方の北山、すでに二十戸が住む右方の上鹿

ました。寺のない人々の将来を心配した法定という僧が再造営に着手、同五年五月ようやく悲願が達成されました。

明治二九年の内部川堤防決壊の被害もなく、同四年現在地墓地の西隣へそのまま移築し、今年で八十五年目の大きな節目を迎えました。

※安政の大地震…嘉永七年（一八五四年）六月十四日（十五日午前一時）いまだかつてなかった大地震が起きました。この年は十一月二十七日安政と改元してありますので「安政の大地震」と呼ばれました。

参考文献 『鈴鹿郡郷土誌』 東天社 『日本史図表』 第一学習社

間の双方に移りました。昭和二八年頃は、レンガのカマドやつるべ井戸の取りこわし跡や大きな柿の木もありました。

## ② 鹿間の大洪水 決壊で21戸流失

今では整地されたほ場（田んぼ）でトラクターによる耕運、秋は一面黄金の稲穂が波打ち、洪水の史実も時代と共に忘れられました。水害の資料も無に等しく、

## 防災について

地区消防分団長 失 田 恒 和

地域の皆様も阪神大震災を教訓にして考えていられる事が多いと思います。

当地域においても大被災の経験が少なく、はたしてここに大地震、火災が発生するだろうか、と危機意識に欠けているのではないのでしょうか。

古老が伝え聞いた記憶の糸をたどり、消え薄れていた過去の姿をよみがえらせました。

今後どのように社会が変わろうと、災害復興に尽した人々の偉業に感謝しつつ、鹿間の歴史として正しく認識し理解して再びくり返さないよう、次の世代に伝えなくてはなりません。

※注1 久間田村…昔の久間田村は、下大久保、鹿間、南小松、岸田、和無田の五ヶ村に分かれていました。明治二二年町制実施と共に下大久保の「久」鹿間の「間」と和無田と岸田の「田」をとって、「久間田村」と改め、昭和三十一年九月三十日樺村と合併して三鈴村が発足するまで続きました。

※注2 内部川…一級河川。鈴鹿山脈の入道ヶ嶽、鎌ヶ岳、水沢峠、宮越山の溪間より東に流れ、塩浜より海にそそぐ。

又、常備消防や消防団員への依存度が高く、自主防災に対する関心度も低いのではないかと思います。消防団は地域と密着するものであり、地域の自主性の中で行なわれるコミュニティ活動です。例えば、地域の成人式を迎えた若い人も、一度は消防団に入って消防訓練を受けて、自分達の町は自分達で守るという認識を持って、立ち向かってほしいものです。特に最近では消防団員の高齢

化問題が言われていますように若い人の力が必要です。（四日市でも地域によって義務づけている分団があります）災害はあってはならないが不幸にも経験してわかるもので、阪神大震災を教訓に、常日頃から心しておくことが必要でしょう。

中はその場を離れない、③器具の周囲を燃えにくいように、④日頃より、器具の点検を行ってください。災害は自分自身で守るもの、常に近隣とのコミュニケーションを大切にして助け合っ行ってきたいものです。又、防災に関する訓練には積極的に参加して身に付けていただきたいと思えます。日頃の備えがまず一番大切です。

## 福祉施設での防災訓練

青山里会 石田 一晃

十一月十四日、小山田特別養護老人ホームでは、夜間の火災を想定した防災訓練が実施されました。

福祉施設では、お年寄りや障害者等、自力で避難することが困難な方々がたくさん生活されています。万が一火災



火事による負傷者の搬送訓練

今回の訓練は、四日市南消防署及び小山田分団から、消防車六台、消防隊員二十七名が参加しての合同訓練です。まず、施設職員による通報、初期消火、避難誘導訓練が実施され、消防隊が到着と同時に一斉放水、ハンゴ車による屋上の逃げ遅れた者の救出、救急隊による負傷者の搬送と、本番さながらの緊迫した訓練が展開されました。

私たち施設職員は、このような事態を決して起こさないよう、日々災害予防に努めることの大切さを、今回の訓練を通して改めて痛感させられました。

# あれこれ



12月28日 六名町老人会  
神社境内の雪かき

## 大雪に 見舞われました



## 和无田町 ふれあい フェスティバル

12月3日

和无田町 湯浅和也

十二月二六日  
堂ヶ山町にて

**そば作り**  
みんな朝から心うきうき  
なれない手つきでそば作り  
太いそば短いそば  
みんなの個性で  
そばいっぱい  
声だし汗だし  
おもいつきり  
笑顔のうずに  
幸せいっぱい  
ゆげの向こうに  
「いただきます」

## ウォークラリー大会

子ども育成者会 矢田節男



サブリーダーとジャンケンポン

毎年真冬に催されるウォークラリー。今年度は二月四日、和无田町で開催しました。親子、又友達数人でチームを作り、コマ地図だけを頼りに、町の中を歩き問題を解きながら進んでいきます。設定された時間があるので、ゴールするまで順位は全く分りません。各町を巡回しているコース、地区をいつもと違った角度から眺め、住みなれた町を知り郷土を愛する心が育てばと願っています。

悪戦苦闘の末やっとできあがったそば、子供達も一生懸命がんばりました。大人と子供の年齢を越えた共同作業でした。  
心のつながりが薄くなった昨今、もっとこんな行事がたくさんあっていいと思います。  
和无田の人、小山田地区の人々、みんな仲良く手をつなぎ、楽しい町づくりがしたいものです。  
心温まるひとときでした。

## やったぜ!! 準優勝

小山田サッカー少年団  
長田春樹



今からちょうど十年前、四日市サッカー少年団の催すメイン行事であるリーグ戦という大会において、前期後期共に優勝し、「サッカー少年団に小山田あり!」と、先輩達が「小山田」の名を県内に知らしめてくれました。  
それ以来、もう一度優勝を!との意気込みを毎年持ち、真夏の照りつける太陽のもと、口の中がカラカラに乾き、喉の皮がつっぱってひっつく状態で、また冬には寒風ふきすさぶ中、手足の感覚がなくなりつつもボールを追い、走りまわって練習しています。

いまの子供らにとっては、いつでも何でも、望むもの全てが労なしに手に入る現在において、「うまくならない!」「強くなりたい!」という目的に向かって努力すること、仲間と心をつなぐこと、...を少しづつでもこの集団の中で体得していつてくれれば...と願っています。  
そんな中で今年リーグ戦大会において、念願であった優勝には及ばぬまでも、「準優勝!!」というところまでこぎつけ、準優勝の盾を勝ち取るこ...とができたのです。また県大会と並ぶべくNHK杯大会において(テレビで見えて頂いた方もお見えかと思いますが)県第3位という力強い成績をも残してくれました。  
しかし、優勝には今一步のところ及ばず、うれしい反面、この悔しさを後輩たちに託し、今度こそ優勝旗を!との目標に向かって努力し続けていってほしいと、切に願っています。

# おやまだ

## 皆で自然の保全を

四日市熟年大学OB会 矢田 信夫

高度経済成長により豊かな生活が出来る反面、身近な自然が開発されて野生の生物が著しく減少し、三重県でも既に絶滅したものが十一種もあり、希少となったもの四百種を越えています。

山田町では平成六年に自然の保全と町民の憩いの場として、八幡山が農村公園に指定されましたので、公園の清掃は老人会が毎月一回社会奉仕として実施しています。

また、熟大OB会(四日市熟年大学及び市民大学熟年クラスの卒業生三一名で、平成

七年二月六日結成)も公園の美化と自生植物の保護を目標に、地区市民センターの協力を得て春にはサツキ百十本を植樹し、夏は公園内に群生しているカンアオイ・チゴユリ・ショウジョウバカマ等の保全のため、ロープで囲い名称を表示し、秋には自生樹木に植物名称を取り付けました。

今後もし引き続き公園内を調査して、希少種の保護と植物の状況に応じて施肥等の管理を考えています。

## 小山田小学校

### 創立百二十周年を迎えて

小山田小学校PTA 矢田 富久子



小学生の頃、友達とバスに乗って、小山田小学校のプールに通ったことがあります。大きな講堂に目を見張り、プールの水の冷たさに身を縮めて、小山田の子ども達にまじって泳がせてもらいました。今自分の子ども達もプールに入っている姿を見るたびに、なつかしく思い出します。平成七年五月六日、創立百二十周年を迎え、形有るものを残して行きたいと考え、学校、PTAで実行委員会を結成しました。

限られた予算の中で「事業」「記念誌」「式典」と三部門に分かれて活動を進め、タイヤ広場横に、「あずまや」を建



## 西陵中、中国と交流

西陵中学校PTA 平尾 孝見

西陵中は、国際社会の一員として行動できる心豊かな人間の育成を目指して国際理解教育に取り組み、平成五年度から「四日市市国際理解教育推進校」の指定を受け、具体的な取り組みを開始。六年度より中国天津市第二南開中学校との交流活動を始めました。

この南開中との友好、交流をより発展させるため、PTA主催で「第二南開中学校との交流と中国の旅」を企画。生徒一三名、父母三名、教員四名と通訳の総勢二二名で七月三〇日、八月四日にかけて中国を訪問しました。

交流の一日目は、まず南開中にて生徒と教師・保護者に分かれてのディスカッション

と校内見学。午後は、生徒間の発表会や全員での餃子作りで親交を深めて、二日目は、科学技術宮(名古屋科学館のような所)を日中混合のグループで見学しました。

はじめのうちは、中国生徒が積極的なのに対し、西陵中の生徒は物怖じして雰囲気になじめなかったが、しだいにうちとけ、最後には片言の英語と身ぶり手振りでプレゼントの交換や、写真を取り合ったりしていました。

生徒たちも、中国生徒の積極性に刺激を受け、今後この体験を生かしたいと異口同音に紀行文に書いています。

PTAとしては、今後このような国際理解教育の活動を支援して行きたいと考えています。

地域の皆様にも、ご理解ご支援のほどよろしくお願い致します。



# 歴史探訪

## 山田町 長田家

### 古文書旅行記を読んで

六名町 田中 弘治郎

今から二三七年前の昔、宝暦九年（一七五九年）に、弟子三人を伴い長田氏が、俳聖松尾芭蕉翁の故事（奥の細道）にならって、俳諧の旅に出た記録です。

同年七月二八日朝、近親者の見送りの中、元気に出発。同夜は桑名泊り、翌日、美濃の国（岐阜）に入り、養老の滝見物での一句。  
・せみならば  
滝にとまつてなかん哉

信濃の国（長野）に進みて善光寺を参拝し  
・袷衣更科の里近くきて  
と詠まれています。

道中四人の同行が行き先暗い、遠い見知らぬ土地への旅での難儀、苦勞も、変った景色に一句まとめた喜びは、俳人の言いしれぬ楽しみで、本人以外にはわからない心情かと思えます。

気の向くまま足の進むだけ気長に四方の風景を楽しみ、一句詠んで又一句、日が暮れたら、近くの旅籠に泊り、腹が空いたら、行く先の茶屋での番茶の渋味にもお国柄の一風変わった味や人情が溢れていたことと思えます。



上野の国（群馬）から下野の国（栃木）、陸奥の国（青森）、出羽の国（秋田・山形）に入り、  
・笠の風情をうけて  
時雨より雪

と詠む。芭蕉翁の帰り道とは反対のルートで、東北道を南下する。  
常陸（茨城）、下総（千葉）、武蔵（東京）、相模（神奈川県）、伊豆・駿河・遠江（静岡県）、三河・尾張の国（愛知）から伊勢の故郷へと十六ヶ国を越えての大旅路でした。

同年十一月二七日の夕方、一一九日間の俳諧の旅を終えられてわが家に戻る。  
長田才治氏は一生涯近郷の同好者に俳句の宣伝指導に献

げられた方でした。  
俳聖芭蕉翁を崇敬され、位牌をまつり追善供養をおこたりになく続けられた徳行者であった由です。

文化というものは、もともとは、庶民一般の暮らしの中から湧き出るようにし成りたってきたもので、その文化の一番小さい核は、人間の一人ひとりであります。

私たちの郷土も、そうした成り立ちのうえに存在してきました。

その社会は、農耕を中心として時代の流れにしっかりと馴染みながら人間本来の姿勢しく、ゆっくりと自然の恵に感謝しながら暮らした時代でしたが、それは遠く過去のものになってしまっています。

それは、人間にとって、人間らしく生きようとする人ほど息苦しいような時代なので、十年がひと昔でなく、二、三年がひと昔というスピード

げられた方でした。  
俳聖芭蕉翁を崇敬され、位牌をまつり追善供養をおこたりになく続けられた徳行者であった由です。

## 西山町の 滝と不動さん

六名町 田中 弘治郎

大昔、水不足に悩む農民が谷間の湧き水を集め小川を作り、流れの落差を利用して、滝を作りました。  
土地の人々が炎暑に涼を求めて滝にうたれて元氣百倍。  
滝壺から流れ出た水は下流の水田に利用しました。  
そして傍らに不動明王尊を祀り、参拝して仏心を養い、招福厄除けを祈念したところ、靈験あらたかたので、参拝者が絶えず、社の年中行事も盛大に行なわれていました。  
（拜殿は今夏、大修理をいたしました。）



時代に、人間は、ともすると自身を見失いがちになります。

れば、風化により埋没し、何時かは、人々の記憶から消滅してしまいます。そうさせてしまわないため、ここに「郷土誌」研究会をつくろうと思

### 西山町郷土誌研究会

西山町 二橋 洋

そんな時代背景を持つからこそ、人間本来の意識に目覚めた、郷土観を培わなければならないのです。

いあいとして肩を張らず楽しくできる、そんな会です。

それには、郷土の自然と人の足跡をたずね、あらためて見直していく努力を求められます。いま、この機を逸す

活動内容は、西山に眠る資料の発掘収集と郷土誌の発行が主で、その間、民族史にかかわる一般的な学習をしております。

今年の、「郷土誌第一集」を刊行したいという、夢の実現に向けて努力しているところです。

現在は、十人ですが、自分に来る事や、みんなに残したい、こんなことを思っている人、そういうものはないが、面白そうだなと思われの方の参加によって運営しております。

生まれて半歳、例会を楽しみに、我流ながらの資料収集と研修に取り組んでおります。

会員の資格、条件は何もありません。

現在十人ですが、自分に来る事や、みんなに残したい、こんなことを思っている人、そういうものはないが、面白そうだなと思われの方の参加によって運営しております。

# 安心して暮らすために……

## 地区民生児童委員の皆さんに これからの抱負を

### 語っていただきました

鹿間町 坂崎 司郎

- ①地域の実情を調査して把握する。福祉サービスの情報を提供する。行政と住民とのパイプ役に努める。又、家の中にとじこもりがちな老人には体力に合った運動を勧め、いつまでも健康な生活を推進していく。
- ②家族や本人の意識を変えて行く事の必要を痛切に感じる。

地域団体との協力が非常に大切だと思うので、福祉推進委員を自治会で作り、協力してもらおうよう話し合いたい。

- ③年末に町内一番組で、餅つき大会を全員参加で実施し、非常に喜んでもらい、ふれあいの大切さを痛感しました。
- その場で来年も実施することが決まりました。

内山町 矢田 俊巳

- ①訪問回数を増やし、友愛と各種サービスの情報提供に努めたい。
- ②自治会の援助(トラブルなど発生した場合の調整役)
- ③民生委員のマークの入った名刺があるとういと思う。

小山町 豊住 久美夫

- ①見守りネットワークの確立、老人会活動への参加により、実態把握に努め、支援活動の糧としたい。
- ②自治会を始め、各団体との

つながりに心がけ、問題点の把握と対応策への実現に努めたい。

- ③在宅介護への援助、サービスが、誰にもわかり易い形で活用されることを望む。

堂ヶ山町 市川 和代

- ①二世帯、三世帯住宅の中で介護をしている家庭の多い町です。

お年寄りのお世話をしながら、充実した生活を送るには、家族の理解や、介護する人の身体と心が健康であることが一番大切だと思います。

- ②誰が安心して暮らせるために、諸団体の活動のネットワークづくりや、色々な「ふれあい事業」をおしで、一層、充実・強化を計らねばと思います。

西山町 榎原 ゆき

- ①年々、福祉サービスも充実してきましたが、昨年の阪神大震災を思うと、不安を感じている人も多く、一人暮らしの方などの対応についても考えなければなりません。

隣近所がお互い様で、思いやり、いたわり、助け合って暮らして行くことが最も手近かな地域福祉ではない

でしょうか。

③皆様のご協力のおかげで、福祉活動をさせて頂いていますが、行き届かない事も多いと思います。いろいろな皆さんのご意見を伺いながら活動したいと思えます。



六名町 中村 典子

- ①従来は、周囲が高齢者を引っぱっていた感があったので、本当のニーズをより確め、ニーズを反映した施策は何かを追求したい。
- 又、高齢者福祉は経済的負担を考慮して、極力在宅中心で行いたい。
- ②幸い立派な地域福祉施設があるので、施設を中核として、より住民の生活を主体とした、地域のニーズに

ぴったり合った活動を進めていけたらと思う。この場合、受益者は地域住民であることを忘れてはならないと思う。

と思います。

山田町 竹内 まつ子

- ①人生の先輩である高齢者の方々が、より良く過ごせるためには……ということもいつも考えて行動したいです。

②小山田に根をおろして十年、人と人が目に見えない絆で優しく結ばれていると痛感しています。このことを大切に住み良い町づくりのお手伝いができたらと思います。

山田町 須藤 愛子

- ①福祉に当てられると言った消費税は本当にそう使われているのか？バスター代を無料にし、体の自由のきく間にもっと活動範囲を広げ、楽しく過ごせたらと思う。
- ②健康者ができるボランティア活動があったらと思う。例えば集会所に集まって、皆で楽しく話し相手や、散歩の同伴などから、はじめてはどうでしょう。
- ③少子化時代ですが、地区の保育園をもっと大事にし、親同志の絆を深め、地域全体で子育てをするという意識を高めたい。子ども達に縦、横のつながりを持たせ、のびのびと育てたいものです。

②先日、ある会食の席で、一人暮らしの方に、「毎日一人で食事を作るのは大儀でしょう。よかったらこのお弁当、手をつけてないから持って行って下さい。」とおっしゃった方があり、「それでは遠慮なしに。」と好意を受けてみえるのを見て、この様なさりげない心配りができる温かい地域なのだと実感しました。

③責任の重さを痛感しつつ、甘えることなく、皆様のご協力を頂いて、頑張りたい

- ①高齢化とともに、寝たきり、一人暮らし等、要援護の方が増えると考えます。近隣住民が協力し、支え合って、ふれあい、交流を深めていきたいと思えます。
- ②福祉への理解は少しずつ深まってきたものの、まだ歴史が浅く、全住民の一層の協力と理解が大切だと思います。
- ③ふれあい、協力を得るためには、行政指導とともに、講演会などの勉強も必要かと思えます。

- ①訪問回数を増やし、友愛と各種サービスの情報提供に努めたい。
- ②自治会の援助(トラブルなど発生した場合の調整役)
- ③民生委員のマークの入った名刺があるとういと思う。

- ①二世帯、三世帯住宅の中で介護をしている家庭の多い町です。
- お年寄りのお世話をしながら、充実した生活を送るには、家族の理解や、介護する人の身体と心が健康であることが一番大切だと思います。
- より良い介護を見つけ、充実するために、少しでも手助けできるような努力して行きたいと思えます。
- ②誰が安心して暮らせるために、諸団体の活動のネットワークづくりや、色々な「ふれあい事業」をおしで、一層、充実・強化を計らねばと思います。

- ①従来は、周囲が高齢者を引っぱっていた感があったので、本当のニーズをより確め、ニーズを反映した施策は何かを追求したい。
- 又、高齢者福祉は経済的負担を考慮して、極力在宅中心で行いたい。
- ②幸い立派な地域福祉施設があるので、施設を中核として、より住民の生活を主体とした、地域のニーズに

- ①今日の日本の発展に尽くして下さった高齢者の皆さんが、安心して暮らせるようにするのは社会の責務だと思います。
- 私もその一端に役立つことができればと思います。
- ②先日、ある会食の席で、一人暮らしの方に、「毎日一人で食事を作るのは大儀でしょう。よかったらこのお弁当、手をつけてないから持って行って下さい。」とおっしゃった方があり、「それでは遠慮なしに。」と好意を受けてみえるのを見て、この様なさりげない心配りができる温かい地域なのだと実感しました。
- ③責任の重さを痛感しつつ、甘えることなく、皆様のご協力を頂いて、頑張りたい

- ①福祉に当てられると言った消費税は本当にそう使われているのか？バスター代を無料にし、体の自由のきく間にもっと活動範囲を広げ、楽しく過ごせたらと思う。
- ②健康者ができるボランティア活動があったらと思う。例えば集会所に集まって、皆で楽しく話し相手や、散歩の同伴などから、はじめてはどうでしょう。
- ③少子化時代ですが、地区の保育園をもっと大事にし、親同志の絆を深め、地域全体で子育てをするという意識を高めたい。子ども達に縦、横のつながりを持たせ、のびのびと育てたいものです。

# この人尋ね

⑪

## 木彫りで充実した毎日を

小山町 里中 末男さん



昨年度の地区文化祭に、見事な「獅子頭」を出品されて注目を集めた、里中末男さん（七六歳）を尋ねました。  
もうずいぶん長い間、手がけていらっしやるのかと思っ  
ていましたが、ずっと知人のや  
っていた能面や獅子頭をみ  
て、「ええなあ！やってみた  
いなー。」と思っていたので、  
二年前に家業を止めたのを機  
会にこれからは自分のしたい  
事をやろうと木彫りを始めた  
とのこと。  
その下地は、戦後、兵隊か

ら帰ってきて、お兄さんのや  
っていた洋家具作りを手伝っ  
ていた時にできたそうです。  
今迄に彫った作品は、獅子  
頭の他に「ほていさん」、「え  
びすさん」などが有ります。  
獅子頭も神社へ奉納した  
り、親戚の祝い事にあげたり  
して、家には最初に作った一  
点だけが残っていました。  
製材所で、いろいろの中か  
ら選んだ角柱の木を寸法に切  
り、のみ・彫刻刀を使って彫  
り出していきます。

彫っている内に夢中にな  
り、時間の経つのを忘れ、息  
子さんの会社の中に有る仕事  
場からお昼時になっても帰っ  
てこない時が有るそうです。  
彫り上がったら、みがいた  
り、獅子頭の場合は、カシュ  
ー塗料を塗って仕上げます。  
ガラスケースも自分で作ると  
のことです。  
この次は仏像へ挑戦したい  
そうです。出き上がったら、  
又、見せてほしいですね。



### 文芸らん

#### 川柳

- ・虫食いの葉っぱ我が家の  
味自慢  
鹿間町 酒井 三春
- ・カラフルな輸入野菜の  
名は知らず  
鹿間町 酒井 三春
- ・裾模様脱いで我が家の  
顔になる  
山田町 清水 延和

- ・羽織いして待つ春を  
翔ぶために  
山田町 矢田 照子
- ・身にしみた力不足を  
糧として  
山田町 矢田 照子

- ・足腰の痛む話して  
バスを待つ  
又会えるだろうか  
墨の濃い賀状  
山田町 矢田はるみ

- ・いい男演じてサイフ  
軽くなる  
ガラス越し女房手振りて  
世話をやき  
内山町 矢田 哲

- ・先頭旗ゆっくり進む  
老いのツアー  
重箱のふた盛り上げる  
母の愛  
山田町 矢田まさ子

### 俳句

- ・童心に返りて競う運動会  
秋の夜や昔話の好きな友  
鹿間町 酒井 三春
- ・米寿や手がきの賀状  
吾もかき  
病室の友におくれり菊の花  
六名町 田中 弘治郎

- 小山田軽費老人ホーム  
俳句同好会（新春）
- ・晩年の母しのびつつ雪の朝  
田中
- ・初便り悲しみのみを  
書かれあり  
しのだ
- ・今年また明けそむる空  
命のぶ  
ちいこ
- ・初夢や亡母の聲にて  
目覚めけり  
吉岡
- ・八十の春自墮落に  
生き伸びる  
麦笑

### 短歌

- ・苦は楽のたねとおそわり幾年月  
悟れぬま、に還暦迎う  
鹿間町 酒井 三春
- ・来春の逢いを信じて罌粟粒の如き 花種丹念に蒔く  
鹿間町 酒井 三春
- ・悪戯の跡を残して巣立ちたる  
吾子発ちし日の部屋の寂しき  
山田町 清水 延和



## 地区の人口5,848人

(平成8年1月1日現在)

町名	世帯数	人口		計
		男	女	
山田町 (内老人ホーム)	968 (479)	889 (120)	1,223 (375)	2,112 (495)
鹿間町	268	436	470	906
西山町	182	321	354	675
小山町	150	299	302	601
堂ヶ山町	113	238	252	490
和无田町	103	205	197	402
内山町	56	99	112	211
六名町	49	99	90	189
美里町	41	126	136	262
計	1,930	2,712	3,136	5,848

### 編集後記

今回は防災をテーマに編集しま  
した。阪神大震災から一年余、改  
めて関心の深まる中、沢山の原稿  
を頂きました。  
広報を通して少しでも、地域の  
防災を考えるきっかけとなればと  
思います。  
又、日頃の地域社会づくりの様  
子を皆様にお届けしたいと、広報  
部員一同、限られた紙面の中で苦  
心を重ねました。  
どうぞご一読ください。  
文化広報部長 矢田 哲